

マネキグサ *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 10。生育地はそれほど多くないが、ある場所ではたいていかなりの個体数が生育している。さしあたり絶滅が危惧される状態ではないが、ニホンジカによる食害の影響が大きくなれば、準絶滅危惧に移行する可能性が高い。

【形態】

多年生草本。細い地下茎がある。地上茎は直立し、断面は四角形、中部でしばしば分枝し、高さ 40～70cm になる。葉は対生し、長さ 1～3cm の柄があり、葉身は卵円形、長さ 3～7cm、幅 2～6.5cm、先端は鈍頭、基部は下部の葉では浅い心形であるが上部の葉では広くさび形、辺縁には大きい鋸歯があり、質はやや薄く、まばらに毛がある。花期は 8～9 月、花は葉腋に 1～3 個ずつつき、花冠は唇形で暗紅紫色、長さ 18～20mm、下唇は 3 裂して開出し、長さは 7～8mm である。果実は 4 個の分果からなり、各分果は倒卵状くさび形で長さ約 2.5～3mm、先端に腺点がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46615, 1993-8-17)、2 豊根 (小林 38681, 1992-8-10)、3 東栄 (芹沢 80842, 2006-8-27)、6 設楽西部 (芹沢 63018, 1992-8-30)、7 設楽東部 (芹沢 76215, 1999-8-29)、8 鳳来北東部 (小林 53340, 1994-8-27)、15 豊橋北部 (芹沢 76622, 1999-10-17)。西：19 旭 (芹沢 86262, 2010-9-25)。

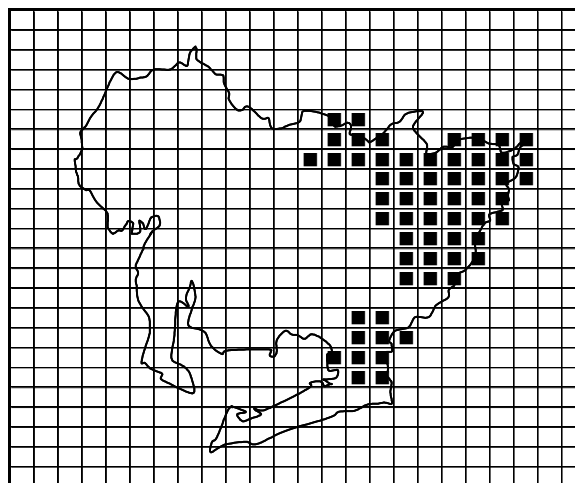
【国内の分布】

本州 (神奈川県以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育地はそれほど多くないが、その場所では通常群生する。一部の生育地では周辺でシカの食害が顕在化しており、今後衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

個体レベルの保全に限れば現状ではそれほど神経質にならなくてもよいが、どこにでもある植物というわけではないので、生育地の保全には配慮する必要がある。

【特記事項】

和名は、花冠が手招きしているような形だからと言われている。ヤマキセワタとも呼ばれる。

【関連文献】

保草本 I p.190, 平草本 III p.74, 平新版 5 p.125.